



ARTIST  
SUPPORT

【アーティストサポート】を通して、  
アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。  
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、  
引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 河村はるみ K.K  
木村美明 M.K 小室秀夫 新貝康司 N.S M.S A.D 土屋涼子 トゥルーラブ真智子  
トゥルーラブ真凜 N.N 中島 和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H M.H 藤野盾臣  
細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田 香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M S.Y  
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ  
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライフブラン株式会社 Heart of the Earth株式会社  
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社  
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会淡路

(匿名希望 22名)

<舘野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 一柳吉子 A.I 大谷恵美子 S.O 小畑裕子 木全恵美子 M.K  
黒川智恵美 黒住彰子 齊藤久子 坂井 和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T  
田邊英利子 中村康江 K.H 羽生賢次 福島晶子 堀田高秀 松田純子 三上美智恵 光永 育  
K.M 山家七恵 S.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子 舘野泉ファンクラブ東京 日本セヴラック協会  
有限会社ムジカーザ NPO法人Mプロジェクト

(匿名希望 14名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜  
篠崎啓史 I.S T.S トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦 勝重  
T.H 林 路郎 細沼康子 牧野佳那 松下泰之(マティビ) S.Y

(匿名希望 14名)

2023年9月30日現在 敬称略 / 匿名希望の方は記載しておりません



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの  
詳細はこちらを  
ご覧ください。



# チャイコフスキー 3大協奏曲の響宴

— 130年目の命日に捧ぐ —

Tchaikovsky The Greatest Concertos

2023年11月6日(月) 19:00開演  
サントリーホール

7:00p.m., Monday, November 6, 2023 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

協力：ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル  
キング・インターナショナル



*Tchaikovsky*

*Program*

**オール・チャイコフスキー・プログラム**

All Tchaikovsky Program

**ロココの主題による変奏曲 イ長調 Op.33** (チェロ:パブロ・フェランデス)

Variations on a Rococo Theme in A major, Op.33 (Cello: Pablo Ferrández)

[フィッツェンハーゲン版]

**ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35** (ヴァイオリン:ヤン・ムラチェク)

Violin Concerto in D major, Op.35 (Violin: Jan Mracek)

第1楽章:アレグロ・モデラートーモデラート・アッサイ

1st Mov.: Allegro moderato — Moderato assai

第2楽章:カンツォネッタ、アンダンテ

2nd Mov.: Canzonetta. Andante

第3楽章:フィナーレ、アレグロ・ヴィヴァーチッシモ

3rd Mov.: Finale. Allegro vivacissimo

\* \* \* \* \*

**ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 Op.23** (ピアノ:キリル・ゲルシュタイン)

Piano Concerto No. 1 in B-flat minor, Op.23 (Piano: Kirill Gerstein)

第1楽章:アレグロ・ノン・トロppo・エ・モルト・マエストロソ  
— アレグロ・コン・スピリト

1st Mov.: Allegro non troppo e molto maestoso  
— Allegro con spirito

第2楽章:アンダンティーノ・センブリーチェ

2nd Mov.: Andantino semplice

第3楽章:アレグロ・コン・フォーコ

3rd Mov.: Allegro con fuoco

[1879年版 チャイコフスキーが所有していたスコアに基づく]

指揮: 高関 健 Ken Takaseki, Conductor

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

## Profile



パブロ・フェランデス (チェロ)

Pablo Ferrández, Cello

「ポップス界のアイドルのように人を引き付ける力、  
素晴らしいテクニック、そして爽快な気分させる音楽性」

—— ロサンゼルス・タイムズ紙

「スペインがパブロ・フェランデスという

新たな天才チェリストを輩出」

—— フィガロ紙

第15回チャイコフスキー国際コンクールの入賞者で、ソニークラシカルと専属契約を結ぶアーティストであるフェランデスは、「新たな天才チェリスト」(フィガロ紙)と称されている。人の心をつかむ演奏者で、「フェランデスはソリストとしての技術、気質、精神、そして権威のすべてを合わせ持ち、表現力と魅力に富んでいる」(エル・パイス紙)と賞賛され、驚異的なチェリストとして、同世代の中でもっとも需要の高い器楽奏者の一人となっている。

近年共演した主なオーケストラには、ロサンゼルス・フィル、チェコ・フィル、ミラノ・スカラ座フィル、オスロ・フィル、バイエルン放送響、ベルリン・コンツェルトハウス管、トーンキェストラ管、ウィーン放送響、イスラエル・フィル、ロッテルダム・フィルなどがある。前シーズンには、エドワード・ガードナー指揮ロンドン・フィルとアンネ=ゾフィ・ムターとの共演でツアーを行った。彼はまた、ヴェルビエ、ザルツブルク、ドレスデン、シオン、ドヴォルザーク・プラハ、グラント・パーク、エルサレムなど、国際的に著名な音楽祭にも頻繁に招かれている。

2023/24シーズンには、ニューヨークのデイヴィッド・ゲフィン・ホールでのデビューが、マドリッド響(リアル劇場管)との共演で予定されているほか、ボストン響、クリーヴランド管、サンフランシスコ響、ピッツバーグ響、シアトル響、トーンハレ管と共演し、ロッテルダム・フィル、ロンドン・フィル、HR響、フランス国立管、ガリシア響と再共演する。さらに、ロサンゼルス・フィルを再訪し、ドゥダメル指揮のもと、ムターとブラームスの二重協奏曲を演奏する。また、セミヨン・ビシュコフとチェコ・フィルとともに、日本(今回)とヨーロッパでツアーを行い、ドヴォルザークのチェロ協奏曲を演奏する。

1991年、スペインのマドリッドで音楽家の両親の家に生まれ、13歳で権威あるソフィア王妃高等音楽院に入学し、ナタリア・シャコフスカヤのもとで研鑽を積む。その後、ドイツのクロンベルク・アカデミーでフランス・ヘルメルソンに師事し、さらにアンネ=ゾフィ・ムター財団の奨学生となった。

使用楽器は、1689年製ストラディヴァリウス「Archinto」。寛大なストレットン協会のメンバーにより、生涯貸与されている。

## Profile



ヤン・ムラチェク (ヴァイオリン)

Jan Mracek, Violin

人気のソリスト、そして室内楽奏者としても高く評価されるヤン・ムラチェクは、プラハの春国際音楽コンクールに史上最年少で優勝し、翌年にはプラハ放送響史上最年少のソリストとなった。2014年には、名誉あるウィーンのフリッツ・クライスラー国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。イルジー・ピエロフラーヴェク賞も受賞している。

2015年には、ジャンアンドレア・ノセダとジャン・ジャン指揮のもと、EUユース管のコンサートマスターに就任。2016年には、指揮者のイルジー・ピエロフラーヴェクの招待により、チェコ・フィルのコンサートマスター及びソロ・ヴァイオリン奏者のポストに就任し、活発に活動が続いている。2022/23シーズンには、ベルリン・フィルの客演コンサートマスターを務めた。

チェコ・フィルで定期的にソリストを務めるほか、プラハ響、チェコ放送響、そしてバンベルク響、MDRライプツィヒ放送響、ロイヤル・フィル、セント・ルイス響、チャイコフスキー響など、世界の多数のオーケストラと共演している。

指揮者から高い評価を得ているヤンは、イルジー・ピエロフラーヴェク、セミヨン・ビシュコフ、ステファス・ドゥネーヴ、ジョン・エリオット・ガーディナー、ヤクブ・フルシャ、キース・ロックハート、ウェイン・マーシャル、デイヴィッド・ロバートソン、マキシム・ヴェンゲーロフ、フランツ・ウェルザー=メストなどのマエストロたちと、ソリストとして共演している。

2008年1月以来、ロブコヴィッツ・トリオのメンバーとしても活動。同ピアノ・トリオとしてアントニン・ドヴォルザーク・コンクールで3位を獲得、さらにヨハネス・ブラームス・コンクールにて優勝及び聴衆賞を受賞した。このアンサンブルによる最新のCDには、ベートーヴェンとヴォジーシェクの作品が収録されており、Rubicon Classicsより発売されている。

アントニン・ドヴォルザーク全集をONYX CLASSICSレーベルで録音し、ジェームズ・ジャッド指揮チェコ・ナショナル響、ピアニストのルカーシュ・クラーンスキーと共演して素晴らしい評価を得た。ハワード・グリフィス指揮ウィーン放送響とモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第2番を録音し、2024年夏にリリース予定。さらに、スーク、メンデルスゾーン、シューベルトの作品を収めた新作の準備を進めている。

フィドゥラ財団の厚意により貸与された1770年製N. ガリアーノのヴァイオリンを使用している。

## Profile



キリル・ゲルシュタイン (ピアノ)

Kirill Gerstein, Piano

ピアニスト キリル・ゲルシュタインのレガシーは、ロシア、アメリカ、そして中央ヨーロッパの伝統と、飽くなき好奇心を融合させた音楽作りにある。それらの資質と、オーケストラ、指揮者、器楽奏者、歌手や作曲家たちと築き上げた関係性により、バッハからアデスまで、新旧の膨大なレパートリーを探索している。明快な表現、優れた洞察力と知性、巧みな技術、そしてエネルギッシュで想像力豊かな音楽性と存在感を兼ね備えている。

ロシアのヴォロネジ生まれ。14歳で渡米し、史上最年少でパークリー音楽大学の学生となり、クラシックとジャズを並行して学ぶ。その後ドミトリー・パシキーロフとフェレンツ・ラドシュらに師事。第10回アルトゥール・ルービンシュタイン・コンクール優勝、2002年にはギルモア・ヤング・アーティスト・アワードを受賞。2010年には、エイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラントとギルモア・アーティスト・アワードの両方を受賞し、その賞金をもとに、ティモ・アンドレス、チック・コリア、アレクサンダー・ゲール、オリヴァー・ナッセン、ブラッド・メルドーらに新曲の委嘱もしている。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ボストン響、ニューヨーク・フィル、ロンドン響等、数々の著名なオーケストラと共演。2023/24シーズンは、ネルソンス指揮ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、シャニ指揮ロッテルダム・フィル等と共演予定。またカーネギー・ホール、ウィーンのコンツェルトハウスでもソロリサイタルを行う。

近年の録音プロジェクトには、ニューヨーカー誌で2016年の注目盤に選出された「リスト：超絶技巧練習曲集」、そして「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」(1879年版)などがある。2020年にドイツ・グラモフォンからリリースされた、ボストン響との「アデス：ピアノと管弦楽のための協奏曲」(世界初演)は2020年のグラモフォン賞を受賞し、グラミー賞にノミネートされた。2023年には、ラフマニノフ生誕150年を記念してキリル・ペトレニコ指揮ベルリン・フィルによる「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番」がリリースされた。

また、音楽家にとって教育に携わることは不可欠と考え、2007年から2017年まで、シュトゥットガルト音楽大学で後進の指導にあたり、2018年10月には、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学教授に就任。2021年5月、マンハッタン音楽学校から音楽芸術名誉博士号を授与された。

## Profile



高関 健 (指揮)

Ken Takaseki, Conductor

Санктペテルブルグ・フィル定期演奏会で聴衆や楽員から大絶賛を受けるなど海外への客演も多く、マイルス・デイヴィス、パウル・モントゥー、クレームホルツ、ブーレーズ等の世界的ソリストや作曲家、特にアルゲリッチからは3回の共演を通じて絶大な信頼を得る、緻密なスコアの分析からスケールの大きな音楽を作り出す名匠。国内主要オーケストラで重職を歴任し、現在東京シティ・フィル常任指揮者、仙台フィル常任指揮者、富士山静岡交響楽団首席指揮者。オペラでも新国立劇場やウラジオストクと Санктペテルブルグでの團伊玖磨「夕鶴」、大阪カレジオオペラでのプリテン「ピーター・グライムズ」、新国立劇場公演ストラヴィンスキー「夜鳴きうぐいす」とチャイコフスキー「イオラント」などを指揮、作品の魅力を存分に伝えて高い評価を得ている。1977年カラヤン指揮者コンクールジャパン、1984年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝。第4回渡邊曉雄音楽基金音楽賞、第10回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第50回サントリー音楽賞受賞。NHK等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。

X (twitter): @KenTakaseki

## 東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra



1911年創立、日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せ持つ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主

公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。海外公演も積極的に行い、高い注目を集める。1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Program Notes

ひのまどか(音楽作家)  
Madoka Hino

### 協奏曲とチャイコフスキー

今年没後130周年、本日命日を迎えるチャイコフスキー(1840~1893)はロシアを代表する作曲家だが、音楽家へのスタートは遅く23歳になってからだった。彼は帝政ロシア時代に新興貴族の家に生まれたため、「貴族の子弟は軍人か役人になるべし」の掟に従い10歳から帝都ペテルブルクの法律学校で学び、19歳で卒業と同時に法務省の役人になった。しかし幼少期からの音楽への止むに止まれぬ思いが、役人を辞め、アントン・ルビンシテインが開校したペテルブルク音楽院に進ませた。音楽院を最優秀で卒業した彼は26歳でモスクワに移り、アントンの弟ニコライ・ルビンシテインが創設したモスクワ音楽院の作曲科教授になり、38歳で退職するまで約12年間務めた。本日演奏される3作品は、教壇に立つ傍ら寸暇を惜しんで作曲に邁進していた35~38歳にかけて書かれた。

当時のチャイコフスキーは1曲毎に成功と失敗を重ねながら、常に師ルビンシテインや同僚たちの助言を求めている。協奏曲を書く際にも名手たちに技術面や演奏効果について相談したが、時代はヴィルトゥオーゾ全盛期、彼と名手たちの力関係が逆転することも多々あり、その過程は度重なる改訂や名手たちによるカットとなってスコア上に残った。

### チャイコフスキー： ロココの主題による変奏曲 イ長調 Op.33

36歳の冬にはほぼ1ヶ月で書き上げた殆どチェロ協奏曲と言える作品。モスクワ音楽院教授で親友の名チェリスト、フィツェンハーゲンの為に作曲、献呈した。チャイコフスキーは自作のロココ風(優雅、繊細)の主題を基に、チェロを存分に歌わせ、超絶技巧も盛り込んだ8つの変奏を書いたが、作曲中フィツェンハーゲンから多くの助言を貰った為「独奏部分は変えてくれても良い」と言ったという。これを拡大解釈したのか、相手は初演で原譜を大幅に改訂し、変奏の順も入れ替え、その上第8変奏をカットして、大好評だったその版を出版してしまった。チャイコフスキーは怒り困惑したが「フィツェンハーゲン版」の人气が高かったため、不本意ながら黙認した。本日もこの版での演奏。(尚、原典版は1956年に復活、その後多く演奏されるようになった)

序奏モデラート・アッサイ・クアジ・アンダンテ。主題モデラート・センブリーチェ 第1変奏テンポ・デッラ・テマ 第2変奏テンポ・デッラ・テマ 第3変奏アンダンテ・ソステヌート 第4変奏アンダンテ・グラツィオーソ 第5変奏アレグロ・モデラート~カデンツァ 第6変奏アンダンテ 第7変奏アレグロ・ヴィヴァーチェ~コーダ。

### ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35

チャイコフスキー38歳、パトロンとなるフォン・メック夫人との関係が始まった時期、元弟子アントニーナ・ミリュエワとの結婚生活に破綻して心を病み外国療養を続けていた時期に、スイスのレマン湖畔クラランで書かれた。ここに弟子で親しい関係にあったヴァイオリニストのコテークが訪ねてきたことと、ラロの《スペイン交響曲》を知った刺激で彼の創作欲は高揚し、コテークに試演して貰いながら僅か25日で完成させた。作品は大ヴァイオリニストのレオポルト・アウアーに献呈する予定だったが、アウアーは「難しすぎて演奏不可能」と多くの改訂を要求。チャイコフスキーが応じなかった為、初演は3年後にウィーンでブロッキーが行うまで延びた。作品を高く評価したブロッキーが各地で演奏する内に人気が高まり、アウアーも自分の非を認めて世に広める側に回った。ここでもアウアーは大幅なカットを行い、この版で普及して今に至る。(こちらも近年ノーカット版での演奏が増えている)。

哀感に満ちた美しいメロディー、ロシアの民族舞踊の勇壮なリズム、華やかな技巧など多彩な魅力に溢れる作品で「4大ヴァイオリン協奏曲」の1つになっている。

第1楽章アレグロ・モデラート~モデラート・アッサイ。第2楽章カンツォネッタ アンダンテ。第3楽章フィナーレ アレグロ・ヴィヴァーチェ・シモ。

### ピアノ協奏曲第1番 変ロ長調 Op.23 (1879年版)

チャイコフスキーが35歳で初めて挑んだ協奏曲。音楽院院長で名ピアニスト、ニコライ・ルビンシテインに捧げる目的で書かれた。ピアノ・パートを書き上げた段階でルビンシテインの意見を求めた所、思いもかけない酷評と「全部書き直すなら弾いてやらないでもない」の暴言を浴び、流石に怒ったチャイコフスキーは献呈先を指揮者で名ピアニストH.V.ビューローに変更、ビューローが初演して大成功し、ルビンシテインも後に詫言で協奏曲の紹介者になった。

今では最も有名なこのピアノ協奏曲を、本日の独奏者ゲルシュタインは「チャイコフスキー生誕175周年」「ピアノ協奏曲第1番初演140年」に当たる2015年に、クリンのチャイコフスキー博物館研究班が出版した「チャイコフスキー所有の1879年版スコア」で演奏する。ゲルシュタインはこの版で2015年にベルリン放送響と、2017年にチェコ・フィルと録音している。以下はゲルシュタインの解説の抜粋。

「チャイコフスキーはこの協奏曲のモスクワ初演直後の1875年と、1879年の2回自分で改訂し、死の8日前(1893年10月28日)にペテルブルクで指揮した時も、自身の書き込み入りの1879年版スコアを使った。この版と、現行のヴィルトゥオーゾ性の高い第3版(作曲者の死後出版)にはかなりの相違があり、これらの変更を誰が行ったのかも諸説ある。最も顕著な違いは、1879年版はオーブニングのピアノの和音を全てアルペジジョで弾くように指定してあること、フィナーレの中間部に伝統的にカットされてきたゆっくりした楽句があること、その他テンポや強弱の表示など細かな違いが沢山ある。総じて1879年版には強い叙情性と高貴な気分がある」。ゲルシュタインは今回日本のファンに「作曲者が本来意図した演奏」を聴いて貰うのを楽しみにしている。

第1楽章アレグロ・ノン・トロポ・エ・モルト・マエストーソ~アレグロ・コン・スピリト。第2楽章アンダンティーノ・センブリーチェ。第3楽章アレグロ・コン・フォーコ。